

大豆栽培圃場における問題雑草の残草実態とその変化

農業技術研究室 ○池尻明彦・村田資治

背景

平成 24～25 年の 2 年間に山口県内全域の大豆栽培圃場の残草実態を調査した。その結果、本県においても帰化アサガオ類やホオズキ類・イヌホオズキ、ホソアオゲイトウなどの問題雑草の侵入・分布の拡大が明らかになった。前回の調査から約 10 年間が経過し、大豆栽培圃場では新たな問題雑草の侵入や問題雑草の分布拡大が懸念される。

目的

大豆栽培圃場における雑草の発生状況等を調査するとともに、新たな問題雑草の侵入の有無を明らかにする。なお、今回の調査は前回調査で、帰化アサガオ類やホオズキ類の発生が多かった長門市を対象地域とした。

具体的な成果

- 1 大豆栽培圃場で残草した主な種類は、イヌビエ、エノキグサ、タカサブロウ類、クサネムおよびメヒシバなどに加えて、難防除雑草の帰化アサガオ類、ホソアオゲイトウおよびヒロハフウリンホオズキである（表 1、図 1、図 2）。
- 2 帰化アサガオ類の残草圃場率が最も高く、前回調査に比べて発生は急激に拡大している（表 1）。また、経営体への聞き取りでは、帰化アサガオ類が最も防除が困難な草種である（表 2）。
- 3 帰化アサガオ類以外の草種では、ホソアオゲイトウ、ヒロハフウリンホオズキが前回調査に比べて増加傾向である（表 1）。
- 4 今回の調査では、新たな問題雑草の発生は確認されていない（表 1）。

表1 大豆栽培圃場における草種別の残草圃場率

草種	残草圃場率 (%)				
	H24*	H25*	R5	R6	
イネ科	イヌビエ	66.7	87.5	37.5	53.3
トウダイグサ科	エノキグサ	9.5	31.3	35.7	33.3
キク科	タカサブロウ類	42.9	43.8	30.4	26.7
マメ科	クサネム	23.8	37.5	33.9	20.0
イネ科	メヒシバ	28.6	37.5	21.4	6.7
キク科	コセンダングサ類	-	-	21.4	6.7
ツユクサ科	ツユクサ	-	-	5.4	26.7
ヒルガオ科	帰化アサガオ類	23.8	18.8	60.7	53.3
ヒユ科	ホソアオゲイトウ	28.6	6.3	33.9	33.3
ナス科	ヒロハフウリンホオズキ	19.0	12.5	19.6	33.3

H24およびH25年調査結果は池尻ら（2015）による。残草圃場率の-は、発生が確認されなかったことを示す。

R5およびR6年の残草圃場率の調査は6月下旬から8月下旬に、R5年が8経営体、計56圃場、R6年が5経営体、計15圃場について行った。R5年およびR6年の残草草種は、残草圃場率が5%以上のもののみを示した。帰化アサガオ類は、ホソアサガオ、マメアサガオ、マルバルコウおよびアメリカアサガオの4種が確認された。



図1 ホソアオゲイトウ、エノキグサおよびホソアサガオの多発圃場



図2 ヒロハフウリンホオズキが発生した圃場

表2 各経営体における防除に苦慮している雑草とその順位（R5, R6年）

順位	調査経営体									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	帰化アサガオ類	帰化アサガオ類	帰化アサガオ類	帰化アサガオ類	帰化アサガオ類	イヌタデ	帰化アサガオ類	アメリカセンダングサ	ホソアオゲイトウ	イヌビエ
2	ヒロハフウリンホオズキ	ヒロハフウリンホオズキ	ヒロハフウリンホオズキ	イヌビエ	エノキグサ	コヒルガオ	イヌビエ	帰化アサガオ類	ツユクサ	クサネム
3	イヌタデ	イヌホオズキ	イヌタデ	ホソアオゲイトウ	イヌビエ	帰化アサガオ類	イヌタデ	イヌタデ	カラムシ	メヒシバ
4	イヌビエ	クサネム	ツユクサ	-	イヌタデ	クサネム	-	ヒロハフウリンホオズキ	帰化アサガオ類	アメリカセンダングサ
5	エノコログサ類	アメリカセンダングサ	シロザ	-	ヒロハフウリンホオズキ	-	-	-	ヒロハフウリンホオズキ	帰化アサガオ類

調査結果は各経営体に聞き取り調査を行って得られた。-は該当草種がないことを示す。

前回（H24, H25年）調査対象の経営体は、C、D、E、GおよびHの5つ。その際、帰化アサガオ類の発生は、うち2経営体で発生が確認された。